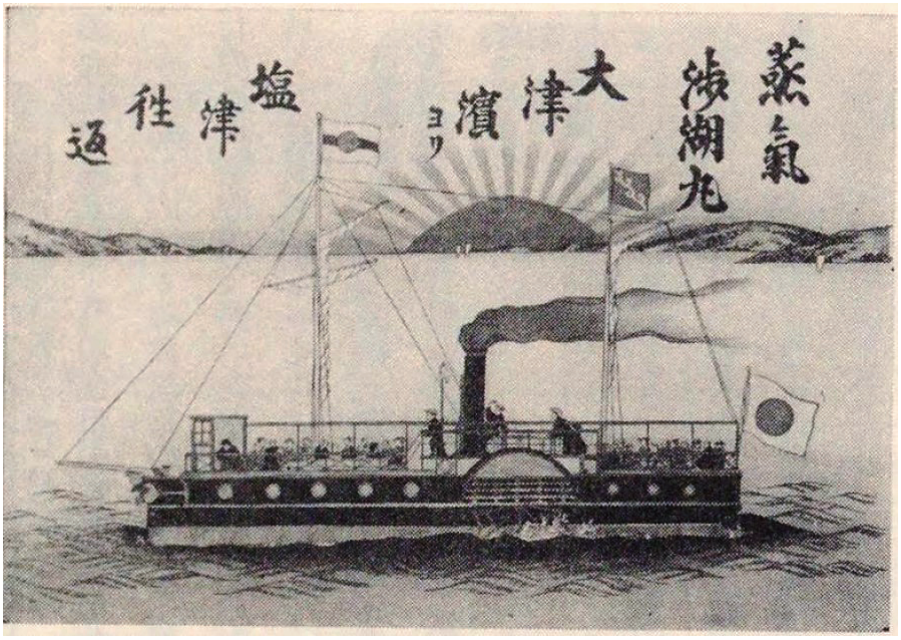
日本海事史学会 第435回 例会（Web例会#53）　参加費無料

明治初期の民間蒸気船の機関についての一考察

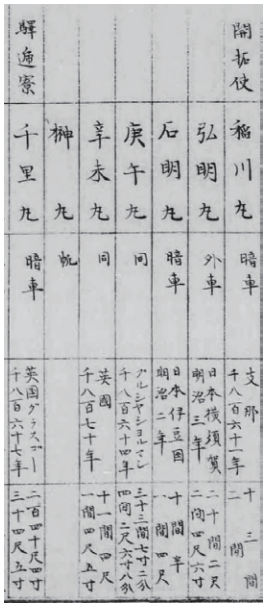
～明治7年「全国艦船其外調書」を中心に～

■講師：中尾（なかお） 光一（こういち）

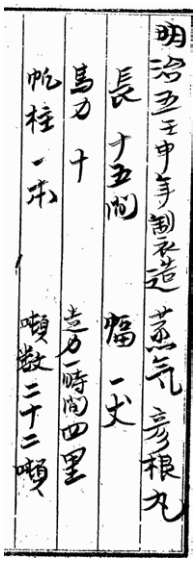
2025年11月22日（土）14:00～16:00　Zoomにて開催（ルームオープン 13:30）



渉湖丸（『新修 大津市史』5巻 333頁）



「全国艦船其外調書」
（『太政類典』国立公文書館蔵）



「輪帆運送船調」
（『明治7年 台湾処分 上 陸軍第1局』防衛省防衛研究所蔵）

前報（第426回）では明治初期の造船技術者に関して報告の機会を頂いたが、蒸気機関の入手先などの疑問が残った。そこで今回は、民間蒸気船の機関について報告したい。

明治初期の民間蒸気船について『日本近世造船史』では「偶に民間において新船を造ることあるもその機関は悉く海軍造船所に託され」低調だったとしているが、実際には国内各地で民間蒸気船が建造されている。明治7年「全国艦船其外調書」（『太政類典』）によると保有蒸気船は118隻、その内訳は国内建造40隻・外国建造47隻・建造地不明31隻であり、民間蒸気船は伊豆の戸田で「石明丸」（製造人は上田寅吉、後に開拓使が購入）、滋賀県で「彦根丸」や「渉湖丸」他6隻など各地で建造されていた。これらの船の建造過程を分析することで明治初期の造船・造機の実態を明らかにしていきたい。

■中尾 光一（なかお こういち）
日本海事史学会会員

1975年大阪府生まれ。花園大学文学部史学科（近現代史）卒業。同大学院修士課程修了。現在は花園大学文学部日本史学科助手。
主要論文は、「海軍艦政局創設に関する一考察 ―初代局長伊藤雋吉を中心として―」（『花園大学文学部紀要』2020年）、「幕末から明治初期における造船技術者に関する一考察 ―緒明菊三郎と緒明造船所を中心として―」（『花園史学』2023年）など。

●関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。
メールでお申し込みください。
※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
お申込みいただいた方には11月19日（水）までにご連絡いたします。
●会員にはメールでご案内をお送りしています。
メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

■申込〆切：2025年11月18日（火）正午（12:00）
■申込先：kaijishi.web@gmail.com（担当：大野）
メールの件名を「日本海事史学会Web例会申し込み（非会員）」として、本文にはお名前をお書きください。

［今後の例会 開催予定日：12月20日（土）駒場対面・2026年1月24日（土）Web・2月21日（土）Web］

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行（年1回）／総会（年1回）・例会（8月と総会開催月を除く年10回）など

日本海事史学会 The Japan Society for Nautical Research　ご入会随時受付中　https://kaijishi.jp/
〒104-0043　東京都中央区湊2丁目12番6号 湊SYビル3F 日本海事広報協会気付　メール：kaijishi.info@gmail.com